

## 23 透析看護師の専門性発揮によるチーム医療の活性化

### —効果的な事例検討会を行なうための看護計画書の作成—

JA長野厚生連北信総合病院

牧野美代子

キーワード：透析看護、看護計画、事例検討会

#### I はじめに

当透析室は、医師、看護師、臨床工学技士、管理栄養士、薬剤師、MSWなど多くの医療スタッフが協力体制をとり、それぞれの立場で専門的な知識と技術を発揮し業務を行っている。特に看護師と臨床工学技士は、日常業務の中で協力・支援することが業務の円滑化に繋がる。しかし、日常業務の中では業務内容が大きく重複し、看護師の専門的知識・技術の弱さを管理者として感じている。

チーム医療として他職種との連携を密にするために月1回事例検討会を開催している。その内容は注射・内服変更や透析の効率などが主であり、セルフケア・家庭生活・地域社会など患者を取り巻く環境や看護の視点から捉えた問題提起が少ない。又、個別の看護計画書がなく患者を取り巻く環境は、受け持ち看護師のみが把握している現状であり、その日解決すべきことは対応しているが独居老人・家族との関係・介護など先行きの問題は受け持ち看護師が不在であると情報がわからず対応が遅れがちである。

そこで今回は、透析看護を見直し効果的な事例検討会を行なうための看護計画書の作成に取り組み、透析看護の専門性を発揮することにより、チーム医療がより活性化することを目指し取り組んだ。

#### II 透析室の概要

表1 透析室の概要

ベッド数:45床	コンソール台数:45台		
スタッフ:看護師12名	技士9名	助手1名	
患者数:160名(男性99名、女性61名)			
平均年齢:65歳	導入疾患名:糖尿病腎症	慢性糸球体腎炎	腎硬化症
シフト数:2シフト(月・水・金)の昼間・夜間			
3シフト(火・木・土)の昼間			
勤務時間:日勤1 8:30~17:00	遅出 13:30~22:00	日勤2 8:00~16:30	準夜 14:30~23:00
早出 7:30~16:00	チーム会議:1回/月		
事例検討会:1回/月			

#### III 方法

- 1 対象:看護師12名、臨床工学技士9名
- 2 期間:平成18年9月~12月
- 3 内容
  - 1) 十字チャートより現状分析し問題点を明確にする。……(8月)
  - 2) 透析室の看護師と臨床工学技士の役割を洗い出し整理をする。……(9月)
  - 3) 現行の事例検討会に関する看護師、臨床工学技士の意識調査をする。(10月)
  - 4) 看護計画書を作成し、事例検討会で活用する。……(11月~)

#### IV 結果

- 1 十字チャートより現状分析した結果(8月)
  - 1) 看護計画書がなく、個人のレベルで指導を行い、看護の展開ができない。
  - 2) 患者の生活指導まで考慮した指導には至っていない。
  - 3) 受け持ち看護師がいないと患者の問題点が不明確であり共有できない。
  - 4) 事例検討会は、看護の視点から捉えた問題提起が少ない。
- 2 看護師と臨床工学技士の役割の明確化(9月)
  - 1) 看護師は機器に関して(機器の保守点検・透析液供給)以外は全ての業務にかかわっている。特に診療の介助・患者の病態生理から透析患者と家族の指導、援助は主に看護師が責任を持って行っている。
  - 2) プライミング・穿刺・返血・回路からの注射投与・透析中のトラブルへの対処・環境(感染防止・医療廃棄物の処理)は臨床工学技士と協働している。
  - 3) 看護業務の中に臨床工学技士の業務が多く含まれていることが明らかになった。

：牧野美代子 〒383-0037

中野市西一丁目5-63 JA厚生連北信総合病院

表2 看護師と臨床工学技士との役割

業務と役割	看護師	技師
患者の病態生理	○	×
長期合併症予防	○	×
医師の診断・治療の介助	○	×
EPO・鉄剤などの投与	○	○
透析開始前の物品準備、血液回路準備、プライミング	○	○
穿刺および穿刺介助、返血	○	○
機器の管理、除水などの設定、トラブルへの対処	○	○
透析中あるいは透析後の患者把握	○	×
透析患者と家族の指導・援助	○	×
機器の保守点検、透析液供給	×	○
記録物の管理	○	○
院内感染防止対策	○	○
医療廃棄物の処理	○	○
医薬品の管理・準備	○	○

3 現行の事例検討会に関する意識調査。(10月)

<調査目的>

- 1) 患者の情報収集・問題提起・記載方法・看護の視点について明らかにする。

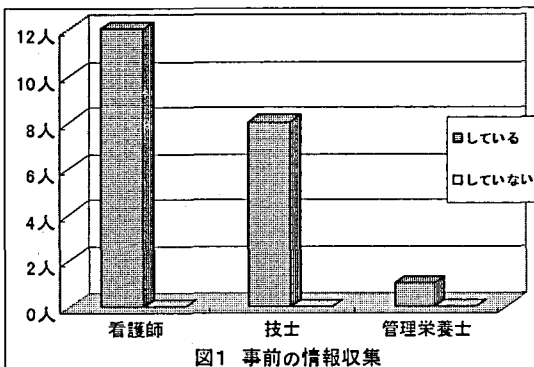
<調査方法>

- 1) 調査対象: 看護師 12名、臨床工学技士 9名、管理栄養士 2名  
 2) データー収集方法  
 調査用紙の作成、配布: 質問紙は 11項目とし、内訳は「情報収集」「問題提起」「記載方法」「看護の視点」の4項目を設け、全体で 11小項目を上げ文章化し作成した。又、効果的な事例検討会の具体策については自由記述とした。

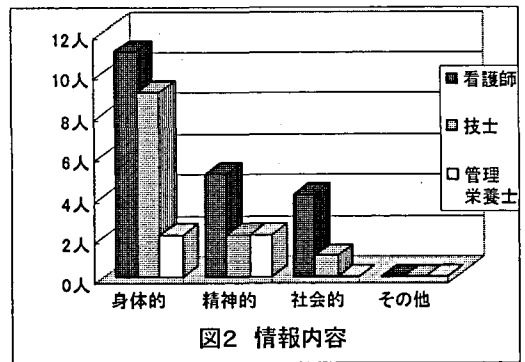
<結果>

【情報収集について】

- 1) 情報収集は事例検討会までに事前に行われているか。



- 2) 情報の内容は主に何ですか。

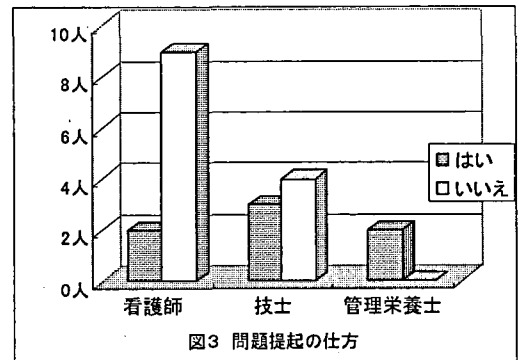


3) 要約

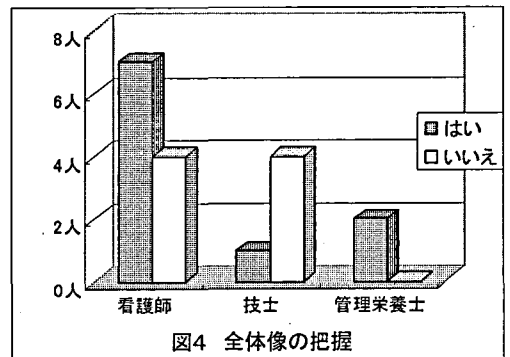
・情報収集は、事例検討会の前に行なわれている事が分かったが、内容は看護師個々の考えに任せてあり視点にばらつきがあった。身体的のみ捉えている看護師が殆どで精神的、社会的内容は半数であった。理由は、透析記録用紙、透析カルテ、検査データーからの情報収集では精神的、社会的内容が書かれていないためである。

【問題提起について】

- 1) 問題提起の仕方は現在のやり方で良いか。



- 2) 全体像を把握しているか。

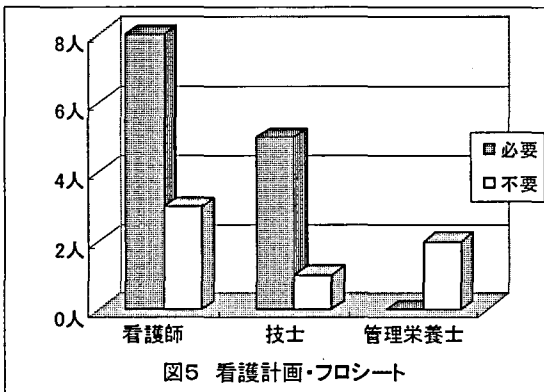


### 3) 要約

・情報収集が不十分なため看護師が満足していない事が分かった。その理由として前年度に看護部で取り組んだ「私のしたい看護」をまとめた結果、「余裕を持って看護にあたりたい。」「患者の全体像を捉え高度な知識、技術を提供したい。」と言う看護師の思いも明らかになり前向きな姿勢がうかがえたからである。

#### 【記載方法について】

1) 患者の問題はどこに記録しているか。又、看護計画書・フロシートがあれば便利か。

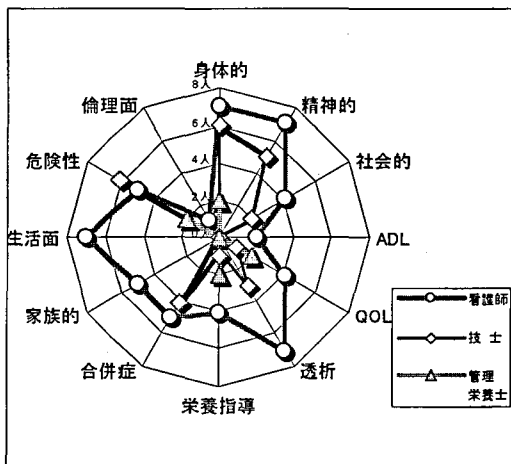


### 2) 要約

・話し合われた内容はノートに記録し、翌日のリーダーが透析記録の継続事項欄に記録している。看護計画書、フロシートがあれば便利だと看護師 8 名、臨床工学技士 5 名が答えていた。

#### 【看護の視点について】

1) 何を視点として事例検討会に望んでいるか。



### 2) 要約

・看護の視点は、身体的、精神的、社会的内容を大きく捉え、十分な透析、生活面での影響は過半数以上を占め、次いで QOL の向上、適切な栄養、合併症、予測される危険性であった。看護師は患者の全体像を捉える上で多岐にわたる看護の視点が必要不可欠であると言える。以上の結果から、一人一人の患者の全体像を捉えるために、特に ADL、倫理的面の強化と社会的・ADL を含めた看護の視点が行き届くような看護計画書の活用が重要となる。

#### 4 看護計画書の作成。(11 月～)

##### <目的>

いつでも、誰でも、何処でも分かる個別の患者に関する看護計画書の作成。

##### <方法>

1) 病棟の看護計画書を活用し透析室に合った内容に修正する。

(1) 看護方針は患者がどうあればいいの「あるべき姿」を記入する。

(2) 患者家族の希望欄へは「ありのままの言葉」で記入する。

(3) 看護の視点は何か具体的な言葉を追加する。

【身体的、精神的、社会的、十分な透析、生活面での影響、栄養指導、合併症、家族背景など】

(4) 患者家族が納得されたら同意サインを受ける。

(5) 問題が解決したら評価日欄に「解決」と記入する。

##### <結果>

看護計画書の立案を開始し、まずは受け持ち患者のうち一人を選び記入し始めた。看護の視点を意識して情報収集した結果、「患者の問題が分かり易い。」「こんなに沢山問題を抱えていた。」「いつもより時間をかけて話げできた。」など意見が聞かれ、患者を取り巻く環境を含め患者の全体像を捉える事ができた。又、看護目標が明確になり、そのためにはどう看護師が関わったら良いのかいつでも振り返ることができ、更に受け持ち看護師が不在でも看護計画書に記録されているため共有でき看護展開できた。そして、何よりも以前より患者の立場に立って考えられるようになったことは大きな成果である。しかし、取り組んだ人、取り組まない人の個人差が現れ、その理由は、「書き方が良く分からない。」「忙しくて書く時間がない。」などであった。

## V 考察

今回の取り組みの中で、透析看護の専門性を発揮することによりチーム医療がより活性化することを目指し取り組んできた。特に看護師・臨床工学技士の役割分担を明確にしたことや、看護計画書を作成し活用することで効果的な事例検討会に繋がったと言える。まだ全患者の看護計画書の立案は達成していないが事例検討会で活用し始めた。日頃余裕がない中で看護計画立案には消極的であった看護師も事例検討会前になると積極的に看護計画立案に取り組み、臨床工学技士も参加していた。忙しい勤務ではあるがスタッフ全員がやればできる雰囲気を感じられた。さらに、事例検討会では、「あるべき姿」を報告し、それに到達するためには看護の視点から何が問題で、何処に看護師が介入したらいいのか、一連の流れがはっきりし分かり易くなったと良い評価を得た。

## VI まとめ

- 1 透析室の看護師と臨床工学技士の役割が明確になった。
- 2 看護計画書を立案した結果、看護目標及び看護の視点が明確になり、全体像が把握し易くなった。
- 3 看護計画書があることで受け持ち看護師が不在でも看護展開ができた。
- 4 看護計画書を事例検討会で活用した結果、患者の抱えている問題が明確になり医療スタッフと共有できた。
- 5 看護師が透析看護を見つめることでチーム全体に影響を与えチーム医療がより活性化した。

## VII おわりに

今回看護師・臨床工学技士がそれぞれの役割の中で透析看護を目指し奮闘していることが分かり、当初感じていた現実とのギャップは自身の思い込みであったことと受け止めた。今後は、看護師・臨床工学技士の言動を受け止め、スタッフと共に思考する態度を持ち、個々の持っている知識をうまく引き出し、顕在化させ共有すうように働きかけていくことが求められることを学んだ。

## VIII 引用文献

- 1) 栗山 哲:透析看護におけるエキスパートナースを目指して 臨床透析
- 2) 大橋 信子:透析看護におけるエキスパートナースを目指して 臨床透析
- 3) 平方 秀樹:透析医療を担う各職種の役割の現状とあるべき姿 臨床透析
- 4) 細田 満和子:チーム医療とは何か 医歯薬出版株式会社